

## 巻頭言 「最大の驚き」

宇野 元

先日、BBC 日本語版ホームページの特集に、コロナ禍により「2020年以前の世界はもう存在していない」とのべる科学者の言葉が紹介されていました。おなじ理解をさまざまな分野の人が語っておりますね。時間は前に進む、時は逆戻りしない。今、このことが強く示されているでしょう。

慣れ親しんでいた風景が消え、未知の、不明確な時が前にある——ウクライナでの戦争が加わって、その思いをいっそう強められるようです。世界が目の前で変わる驚きと戸惑い、不安と恐れをおぼえます。

マルコ福音書は、イースターの朝、弟子たちが体験した恐れをありありと伝えています。「婦人たちは墓を出て逃げ去った。震え上がり、正気を失っていた。そして、だれにもなにも言わなかった。恐ろしかったからである」(16, 8)。イエス・キリストの復活。それは喜びとなる前に、まず驚き恐れとして与えられました。

マグダラのマリア、ヤコブの母マリア、サロメが、イエスのなきがらに手厚い配慮をおこなうために墓を訪れました。三日前、イエスが墓に納められる様子を見ていた彼女たちは、墓にむかいながら、ひとつのことだけを心配しておりました。だれがああ重い石の扉をあけてくれるだろう？ ところが、墓に着くと、入り口を塞いでいた石はわきに転がされていました。思い描いていたのとちがいます。そして見知らぬ人から告げられます。あなたがたは十字架につけられ、死んだイエスを捜しているが、あの方はここにはいない。あの方は復活された！ イエス・キリストは、あなたがたが想像する場所にはいらっしやらない。あなたがたに先立って進まれ、あなたがたを導かれる。

世界の状況に驚き、恐れおののく心に、聖書は確かなよりどころを知らせてくれます。イースターの出来事は、私たちが知る恐れに勝るものです。世にある私たちはみずからの思いを超える恵みに担われています。

時は逆戻りしない。それをこう言い換えることができます。私たちの時は、イエス・キリストの復活の後にある。